

免疫グロブリン製剤ってどんな薬？

免疫グロブリン
製剤とは

安全対策

副作用について 予防接種について



免疫グロブリン療法を受けた患者さん

はしか（麻疹）、風疹、麻疹・風疹混合 [MR]、みずぼうそう（水痘）、おたふくかぜのワクチンのスケジュールに気をつけてください。

6か月を過ぎてから、すべての予防接種を通常スケジュールで受けることができます。ただし、はしかが流行っていない時は11か月を過ぎてから受けたほうがよいと判断される場合もあります。これは、免疫グロブリン製剤にはさまざまな抗体が含まれており、せっかく予防注射をしても免疫力がつかず、接種する意味がなくなる可能性があるためです。下記に例をあげます。

例 おたふくかぜワクチンの接種の場合

パターンA

 JB 日本血液製剤機構	 JBスクエア おたふくかぜワクチンの接種を行う前に免疫グロブリン製剤を投与した場合は医療関係者向け情報	 患者様向け情報
---	---	--

→おたふくかぜワクチン接種まで**6カ月以上**あけてください。

パターンB

おたふくかぜワクチンの接種後、**14日以内**に免疫グロブリン製剤を投与した場合

→再接種※が**必要**です。次回のおたふくかぜワクチン接種まで**6カ月以上**あけてください。

パターンC

おたふくかぜワクチンの接種後、**15日以上経過後**に免疫グロブリン製剤を投与した場合

→次回のおたふくかぜワクチン接種まで**6カ月以上**あけてください。

前回接種したワクチンの再接種は不要です。

※生ワクチン接種後14日以内の時は再接種をします。ただし、免疫グロブリン投与後適切な期間をあけて抗体陽転（セロコンバージョン）が確認されれば再接種は不要です。

抗TNF- α 薬を受けた患者さん

炎症を抑える効果が長期間持続し感染症にかかりやすくなる場合があります。生ワクチン（はしか（麻疹）、風疹、麻疹・風疹混

JB 日本血液製剤機構
JBスクエア 医療関係者向け情報
JB 患者様向け情報

合 [MR]、みずぼうそう(水痘)、おたふくかぜ、BCG、ロタ]接種によりワクチン株による感染の恐れがありますので、必ず主治医にご相談のうえ受けてください。



副作用被害救済制度・感染等被害救済制度について

薬を適正に使用したにもかかわらず副作用による疾病、障害等の健康被害を受けた方、あるいはこの薬が原因で感染症にかかり、入院治療が必要な程度の疾病や障害等の健康被害を受けた方の救済を図るために、医療費、医療手当、障害年金などの給付を行う公的制度があります。

